

説 教

北浜チャーチ
黒田禎一郎

2022年7月17日（日）

主 題：「神は愛です」

テキスト：第一ヨハネの手紙3章1，2節

はじめに

・お早うございます！

・これまで私たちは「真理にとどまりなさい」、「キリストにとどまりなさい」というテーマで学んできました。初代教会時代、キリストの教会とキリスト者は、内側と外側の両面から激しい攻撃を受けていました。それに反キリストも現れ、混迷の下に置かれていました。

・しかしこの書簡の著者ヨハネは、そのような困難の状況下にあっても、キリスト・イエスにある者は、圧倒的勝利者となることを説きました。

その秘訣は次のみことばです。

2:28 さあ、子どもたち、キリストのうちにとどまりなさい。そうすれば、キリストが現れるとき、私たちは確信を持つことができ、来臨のときに御前で恥じることはありません。

・真理であるイエス・キリストにとどまる者こそ、主の祝福にあずかる者です。私たちはイエスが「ぶどうの木のとえ」で語られたように、ぶどうの木と枝の関係のように、とどまる大切さを学びました。

・そして第3章に入ります。この3章以降に書かれた内容は、一言でいえば「神は光である」とうメッセージです。ヨハネは、イエスをキリスト（救い主）と信じる者は、本当に神の子であると語っています。3章全体で、ヨハネは「神の子であるしるし」について述べています。

・今日はそのはじめの2節から学びたいと思います。

大切なポイント

1. 見よ、何という愛

3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

- ・この聖句は原文では、「**見よ、なんと**いう愛****」という始まりです。
(英語訳、ドイツ語訳の聖書は、原文に近い表記です)
ヨハネは、先ず神が与えてくださった愛の事実に注目しないさい、と言いました。
- ・**私たちの生き方、歩み方、はこの事実から出ています。先ず、神の側から出た愛の事実があり、その愛が私たちを変えてくださいました。**しかし、私たちは信仰を持っていても、罪ある者ですから、なかなか実感できません。神の愛を実感できないと、心に安らぎはありません。

1) では、なぜ私たちは神の愛が実感できないのでしょうか。

- ・考えてください！ なぜ、心が騒ぎ、落ち着かず、不安に思うのでしょうか。聖書を長年読み、教会にも長年通い、長いクリスチャン生活を過ごしながらも、どうして神の愛が実感できないのでしょうか……。いろいろ理由はあります。例えば；
 - ① 信仰によって信じる福音は感情ではありません。そうではなく、神の愛という真理の上に立つ信仰であります。
 - ② 神が偉大な神であることを知らないことがあります。自分の頭で理解しようとする神です。つまり頭に納まるサイズの神を考えるのですが、納まらないのは当然です。自分サイズの神を考えてはいないのでしょうか。
 - ③ 素直な信仰を持ってないからです。
子どもと異なり、大人みことばを素直に受け入れることは難しいものです。私たちの生きる社会は、悪意に満ちた人々が多くいます。決して良い環境ではありません。そこで素直な心よりも、身構えしてしまうものです。
- ・更に他の理由もありましょう。しかし皆さん。いろいろ理由はありましょうが、**なぜ神の愛が実感できないのか、考えてみてください。**
⇒「**信仰**」が足りないからではないのでしょうか。
信仰の反対は不信仰です。信仰でクリアするならば、神を実感し始まることは可能です。
- ・皆さん。ガリラヤ湖上の弟子たちを思い出してください。イエスは同舟されてはいましたが、突然暴風に襲われました。舟は木の葉のように揺れる中、弟子たちはどうであったのでしょうか。 **マルコの福音書 4 章**
4:38 ところがイエスは、船尾で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生。私たちが死んでも、かまわないのですか」と言った。
4:39 イエスは起き上がって風を叱りつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、すっかり風になった。

4:40 イエスは彼らに言われた。「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」

- ・信仰がなければ神を実感できません。弟子たちでさえそうでした。

ヨハネは次の2節でも、「私たちは今すでに神の子どもです。と言いました。

2) 今、すでに神の子どもです

3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。

- ・今、すでに神の子どもであるとは、いつからでしょうか。

ヨハネは福音書でこう述べました。

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

- ・イエスを受け入れた、信じたときのことです。その瞬間に、私たちは恵みによって「神の子」とされました。それは神からの贈物です。では、神の子となった者は、どのような立場でしょうか。

3) 神の子どもは神の国の相続人である

- ・ローマ人への手紙には次のように書かれています。

8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

- ・神の相続人とは、想像を超えるほど大きな、高貴な身分です。私たちには、そのような身分が与えられています。しかし神を知らない生まれたままの人間であるなら、神の怒りの子です。

- ・パウロはエペソ人への手紙で次のように語っています。

2:3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

- ・キリスト者は優れた器であるから、選ばれたのではありません。ただ神の恵みにあずかったものです。それは神からの贈物です。神からの贈物は、贈り主である神を知ることから始まります。それは日々、神との交わりから知ることができます。(デイポーシオンは大切)
- ・では、恵みによって神の子とされた者は、どのような立場にあるでしょうか。それが第二のポイントです。

2. 愛によって与えられた特権

3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

1) キリストに似た者になる

- ・「似た者」とは「同じ」という意味です。心と体において、キリストに似た者としていただくのです。私たちは罪赦されたとはいえ、今も心に残る汚れがあります。
 - ・しかし、その日、すなわちキリストが現れたときには、全くきよめられます。そして私たちの体も、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださいます。
- ピリピ人への手紙

3:21 キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。ピリピ

- ・それはイエス・キリストのご再臨のときに、起こります。そして、その時に私たちは栄光のからだに変えられるのです。それは未来に起こることで、どのようなことでしょうか。いくつか考えてみましょう。

2) 神による確かな未来

① 栄光に包まれたイエス マタイ 17章

- 17:1 それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。
- 17:2 すると、弟子たちの目の前でその御姿が変わった。顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。
- 17:4 そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることはすばらしいことです。よろしければ、私がここに幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」
- 17:5 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声がした。

② 威厳に満ちたイエス 黙示録 1 : 16, - 18節

- 1:16 また、右手に七つの星を持ち、口から鋭い両刃の剣が出ていて、顔は強く照り輝く太陽のようであった。
- 1:17 この方を見たとき、私は死んだ者のように、その足もとに倒れ込んだ。

すると、その方は私の上に右手を置いて言われた。「恐れることはない。
わたしは初めであり、終わりであり、
1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、世々限りなく生きている。
また、死とよみの鍵を持っている。

③ 「顔と顔を合わせて」知るイエス 1コリント13:12

13:12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。

④ 神のご計画にあるイエス ローマ8章

8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

⑤ イエスと同じ姿に変えられる 2コリント3章

3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

・皆さん。ここに幸いなことばがあります。

3:2 私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

・ここに神の子となった者の確かな未来があります。それはキリストによる信仰を持つ者の特権であります。

{例 話}

- ・もうひと昔前になりますが、NHKが生きた方言を収録するために、数人ずつ高齢者を招いて、自由に語りあってもらった番組がありました。高齢者たちが話す話題で圧倒的に多かったのは、若い頃は苦勞した。今の若い者は苦勞が足りない、という趣旨の話しであったそうです。
- ・しかも調べてみますと、同じ身の上話しを何度も何度も情熱的に話す傾向がありました。高齢者は今の時代も、あまり変わってはいないのではないのでしょうか。
- ・私たちは何を見て、何を語っているのでしょうか。過去を語る者でしょうか。あるいは、神の愛の事実を見て、神による確かな未来を語るものなのでしょうか。

- 私たちは過去の出来事を語ることも大切ですが、確かな未来について語ることも大切です。未来は神の贈物がまっているのです。それを受け取る人はだれかといえば、愛が与えられたキリスト者です。それがキリスト者の特権であります。

ま と め

主 題：「神は愛です」

—特権—

- 今朝も、主はみことばによって、私たちにお語りくださいました。
ヨハネは言いました。
3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。
世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。
- キリストにある人は、キリストに似た者となります。似た者同士という言葉のように、いつも一緒にいて時を過ごすならば、当然似てくるものです。弱者は強者の影響を受けるはずです。
- 聖書はキリストにある者に、確かな未来を語ってくれています。
それは愛ににあって与えられた特権です。
3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

* God bless you!